

## 三河の昆虫

No. 41

1994 年 2 月

MIKAWA NO KONTYU

Published by

The Mikawa Insects Association

〒444-35

岡崎市舞木町狐山6-4

大平仁夫方

三河昆虫研究会 発行

## 稲武町で採集した蝶類

杉 浦 寛・小 鹿 亨・今 泉 美 香

愛知県北設地方の蝶類についての報告は、阿江(1976)・鈴木(1980)などがあるが、稲武町の蝶類そのものの報告は必ずしも多くない。

筆者らは1992年12月～1993年10月までの期間、北設楽郡稲武町の中中部(黒田川と名倉川に挟まれた地域)において、以下の目録に示す蝶類を観察・採集したので報告する。この地域のほとんどが、スギやヒノキからなる植林地で、沢や小ピークなどにわずかに残された二次林や耕作地の周辺が、蝶類の発生場所になっている。

なお、この報文中の地名は、次の記号で省略する。また、普通種では、データを代表的な2～3例だけにとどめ、他は省略したものもある。

A:川手の城ノ上の南側、標高550 m付近の林道

B:シシナド洞の東斜面の加茂県有林

C:御所具津の仲根

D:漆瀬中洞の周辺

E:笹平・矢竹の周辺

F:黒田川に面した奥沼・千保田の周辺

## セセリチョウ科 (HESPERIIDAE) (9種)

1) アオバセセリ *Choaspes benjaminii japonica*

D: 目撃 12-IX (lex.).

2) ダイミョウセセリ *Daimio tethys*

C: 16-V (1♂)。D: 6-VI (1♂)。

3) ミヤマセセリ *Erynnis montanus*

D: 16-V (1♂), 目撃 5-V (lex.).

4) コチャバネセセリ *Thoressa varia*

目撃 A: 4-VII。C: 6-VI 他多数。

5) ヒメキマダラセセリ *Ochlodes ochraceus*

目撃 B: 7-VIII。C: 6-IV 他多数。

6) キマダラセセリ *Potanthus flavus*

C: 7-VIII (1♂)。

7) オオチャバネセセリ *Polytremis pellucida*

C: 6-VI (1♂), 11-X (2♂)。

目撃 A: 4-VII, 他に多数目撃。

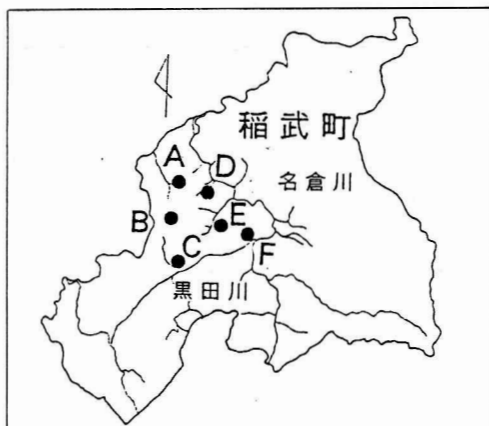
8) チャバネセセリ *Pelopidas mathias oberthueri*

C: 11-X (1♂)。

9) イチモンジセセリ *Parnara guttata*

B: 5-V (1♂), 7-VIII (1♂)。

C: 11-X (2♂)。



## アゲハチョウ科 (PAPILIONIDAE) (8種)

1) ウスバシロチョウ *Parunassius glacia-*

lis

C : 16-V (3♂), 6-VI (1♂)。D : 5-V (4♂), 9-V (8♂, 1♀), 16-V (4♂)。E : 5-V (2♂) 他多数目撃。

2) ナミアゲハ *Papilio xuthus*

A : 5-16 (1♂)。C : 6-VI (1♂)。

個体数はあまり多くない。

3) キアゲハ *Papilio machaon hippocrates*

目撃 C : 5-V (1ex.)。

4) オナガアゲハ *Papilio macilentus*

A : 23-V (1♂), 6-VI (2♂)。B : 5-V (1♂), 7-VIII (1♂), 17-VIII (3♂)。D : 12-IX (1♀)。

春型の1♂で、性標が後翅前縁部裏側にも発現した個体が採集された。春型にはしばしば現れる軽度の“異常”と思われる。

5) クロアゲハ *Papilio protenor demetrius*

B : 5-V (1♂), 7-VIII (1♂), 12-IX (2♂)。C : 12-IX (1♂) 他に多数目撃。

6) モンキアゲハ *Papilio helenus nicconicolens*

B : 12-IX (1♂)。

当地の黒色 *Papilio* の中では、もっとも数の少ない種である。

7) カラスアゲハ *Papilio bianor dehanii*

A : 17-VIII (2♂, 1♀), 12-IX (2♂)。B : 5-V (1♂)。D : 29-VI (1♀), 6-VI (7♂, 2♀), 17-VIII (1♂), 12-IX (1♂) 他にも多数目撃。

8) ミヤマカラスアゲハ *Papilio maackii*

A : 17-VIII (3♂, 1♀)。B : 5-V (1♂)。C : 17-VIII (1♂, 1♀)。D : 23-V (7♂) 他多数目撃。

北向きの二次林の斜面にはキハダが多く見られ、本種の発生源になっているものと考えられる。

## シロチョウ科 (PIERIDAE) (6種)

1) キチョウ *Eurema hecabe mandarina*

A : 15-X (1♂)。D : 5-V (1♂)。

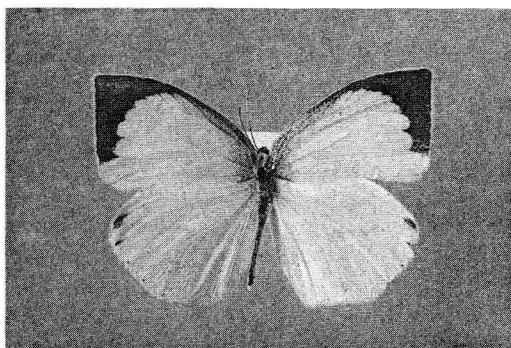
目撃 C : 9-V, 16-V, 23-V, 29-V,

6-VI, 12-IX, 10-X, 11-X, 他多数。

2) ツマグロキチョウ *Eurema laeta bethes-eba*

C : 11-X (1♀)。

畑の畦道を飛んでいたところを採集した。個体数は少なく、一連の調査において採集されたのはこの1♀のみである。



ツマグロキチョウ

3) モンキチョウ *Colias erate polio-graphus*

C : 5-V (1♂, 1♀), 6-VI (1♂), 10-X (1♂), 11-X (3♂) 他に多数目撃。

4) ツマキチョウ *Anthocharis scolymus*

C : 16-V (1♂), 6-VI (1♀)。E : 5-V (1♂) 他多数目撃。

5) モンシロチョウ *Artogeia rapae crucivora*

C : 6-VI (1♂) 他多数目撃。耕作地周辺に多い。

6) スジグロシロチョウ *Artogeia melete*

B : 11-X (1♀)。C : 16-V (1♂), 6-VI (1♂), 10-X (2♂), 11-X (3♂) 他に多数目撃。

## シジミチョウ科 (LYCAENIDAE) (16種)

1) ウラギンシジミ *Curetis acuta paracuta*

B : 9-I (1♀)。C : 11-X (2♂)。E : 11-X (2♂, 1♀), 他に多数目撃。

2) ムラサキシジミ *Narathura japonica*

B : 11-X (1♂)。

3) アカシジミ *Japonica lutea lutea*

E : 4-VI (1♀) クリの花にきていた個体。

4) ミズイロオナガシジミ *Antigius attilia*

*attilia*

越冬卵 A : 17-I (1卵)。

5) ウラクロシジミ *Iratume orsedice*

B : 27-VI (1♂, 1♀), 4-VII (1♂)。越冬卵 A : 17-I (3卵), 15-I (14卵)。

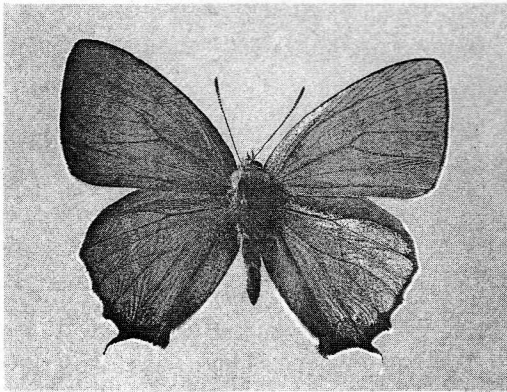
E : 9-I (6卵) (全てマンサクから採卵)。

6) メスアカミドリシジミ *Chrysozephyrus smaragdinus*

B : 6-VI (2♂), 21-VI (3♂, 1♀)。

越冬卵 A : 15-I (1卵), (1卵殻)。D : 17-I (1卵), 20-III (3卵) (ヤマザクラの一種)。

沢沿いの広葉樹の葉上で、占有行動をとる個体が見られた。当地の二次林の中にサクラ類は多いが、本種の越冬卵はあまり多くない。



オオミドリシジミ

7) オオミドリシジミ *Favonius orientalis*

越冬卵 A : 15-I (7卵)。B : 20-III (3卵)。D : 17-I (4卵), 20-III (3卵) (コナラ)。

日中でも日が当たらないような、暗い場所に生えたコナラのひこばえや細枝の分岐部から採卵された。この種は産卵に低い位置を好むとされているが、日陰の暗いところに都合よく苗木やひこばえがあることが少なく、結果的に低いところだけでなく、背丈以上もある位置の細枝からも採卵された。愛知県の昆虫 (下) によれば北設地方での既知産地として、設楽町、津具村、豊根村などが知られているが、稲武町での採集報告はない。

8) トラフシジミ *Rapala arata*

C : 5-V (1♀), 4-VIII (2♂, 1♀)。

9) コツバメ *Callophrys ferrea*

D : 5-V (2♂), 16-V (2♂)。

10) ベニシジミ *Lycaena phlaeas daimio*

C : 5-V, 6-VI, 10-X, 11-X, 他多数目撃。

11) ウラナミシジミ *Lampides boeticus*

C : 10-X (2♂)。

12) ヤマトシジミ *Pseudozizeeria maha argia*

A : 11-X (1♂)。

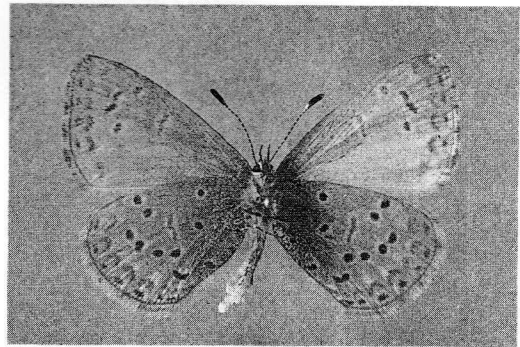
13) ルリシジミ *Celastrina argiolus ladonides*

C : 9-V (2♂, 2♀), 4-VII (1♂)。

E : 4-VII (1♂)。

14) スギタニルリシジミ *Celastrina sugitanii*

C : 6-VI (1♂)。D : 5-V (3♂, 3♀), 9-V (3♂, 1♀), 6-VI (1♂)。



スギタニルリシジミ

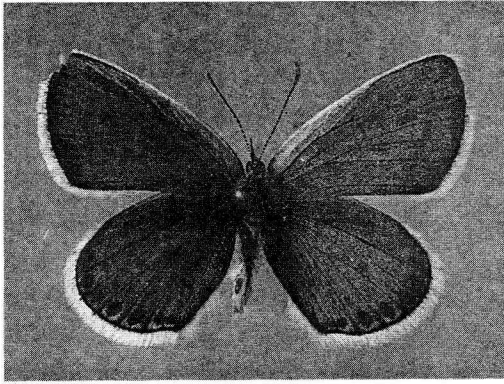
沢の流れる谷側から上昇し、林道を横切るところを採集した。本種の食草はトチノキの花蕾であり、沢沿いにトチノキが見られることから、ここで発生したものと思われる。トチノキのある温帯の溪流の周辺という特殊な生息環境を好むため、県内での生息地は局限され、愛知県の昆虫 (下) によれば、富山村、東栄町、豊根村など、奥三河の山間地に限られている。

15) ツバメシジミ *Everes arigiades hellotia*

D : 12-IX (1♂), 10-X (1♀)。

16) ヒメシジミ *Plebejus argus micurargus*

C : 4-VIII (1♂)。



ヒメシジミ

## テングチョウ科 (LIBYTHEIDAE) (1種)

- 1) テングチョウ *Libythea celtis celtoides*  
B : 6-VII (1♂), 21-VII (5♂)。

目撃 B : 11-III (lex.)。D : 20-III (lex.)  
他目撃多。

## マダラチョウ科 (DANAIDAE) (1種)

- 1) アサギマダラ *Parantica sita nipponica*  
A : 11-X (1♂, 2♀)。B : 11-X (1♂, 1♀)。D : 6-VII (1♂)。目撃 D : 5-V (lex.)。

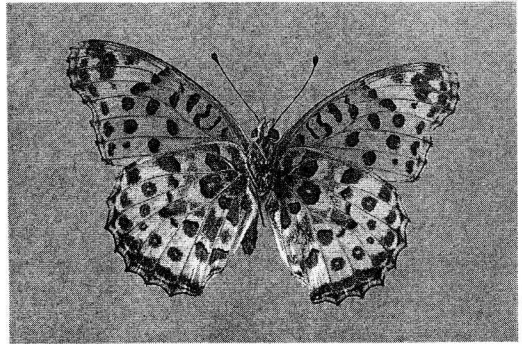
## タテハチョウ科 (NYMPHALIDAE) (21種)

- 1) オオウラギンスジヒョウモン *Argyronoma ruslana*  
A : 12-IX (1♂)。B : 11-X (1♀)。C : 4-VII (1♂)。
- 2) ミドリヒョウモン *Argynnis paohia geisha*  
A : 12-IX (2♂)。B : 12-IX (1♂)。E : 11-X (1♀)。
- 3) クモガタヒョウモン *Nephargynnis anady-omenemidas*  
A : 11-X (2♂, 1♀)。B : 6-VII (4♂, 1♀), 11-X (3♀)。C : 23-V (3♀), 11-X (1♂)。E : 11-X (1♂)。
- 4) メスグロヒョウモン *Damora sagana liane*  
A : 12-IX (1♂)。B : 11-X (1♀)。C : 6-VII (1♂), 27-VII (1♀)。E : 4-VII (1♂)。

- 5) ウラギンヒョウモン *Fabriciana adippe pallenscens*

B : 4-VII (5♂)。C : 6-VII (2♂, 2♀), 10-X (1♀), 目撃 4-VII 他にも目撃多数。

- 6) ツマグロヒョウモン *Argyreus hyperbius*  
C : 6-VII (1♂)。



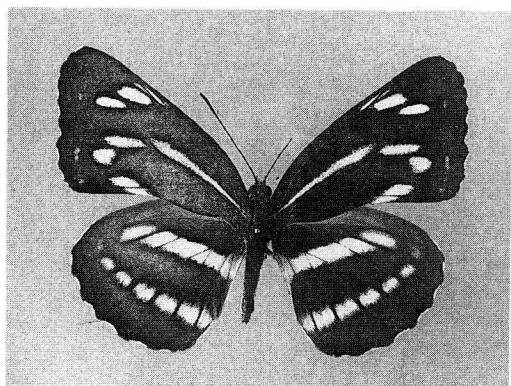
ツマグロヒョウモン

今回の調査において採集されたのは、1♂のみである。

暖地性の種で、これまでに稲武町での採集報告はない。県内では散発的な記録があり、多くは南方からの飛来、あるいは一時的な発生と考えられている。近年、三重県や愛知県内の採集報告が増えており、また茶臼山山頂で採集された報告(杉浦 1993)もあることや、本個体がほとんど完全な状態であることから、稲武町においても一時的な発生があったものと考えられる。

- 7) イチモンジチョウ *Limnitis camilla japonica*  
B : 17-VIII (1♀)。C : 6-VII (1♂, 1♀) 12-IX (1♂), 他に多数目撃。
- 8) コミスジ *Neptis sappho intermedia*  
B : 16-V (1♀), 23-V (1♂), 6-VII (1♂), 12-IX (1♂)。C : 6-VII (1♂) 21-VII (1♂)。D : 21-VII (1♂), 他に多数目撃。
- 9) ミスジチョウ *Neptis phillyra excellens*  
B : 27-VII (2♂, 1♀), 目撃 4-VII (1♀)。

当地の *Neptis* でもっとも個体数が少ない種。



ミスジチョウ

- 10) オオミスジ *Neptis alwina kaempferi*  
D: 4-Ⅶ (1 ♀)。E: 27-Ⅶ (2 ♂, 1 ♀)。目撃 C: 4-Ⅶ (1 ♂)。  
人家の近くに植えられたウメに発生している。
- 11) ホシミスジ *Neptis pryperi*  
D: 21-Ⅶ (1 ♀)。E: 27-Ⅶ (1 ♂), 4-Ⅷ (1 ♂)。F: 21-Ⅶ (2 ♂)。  
個体数は少ない。植林地より人家の近くや耕作地の周囲に見られた。
- 12) サカハチチョウ *Araschnia burejana atrigosa*  
B: 12-Ⅸ (1 ♀)。C: 16-V (2 ♂), 23-V (1 ♂), 6-Ⅶ (1 ♂)。D: 17-Ⅷ (1 ♀), 12-Ⅸ (1 ♂)。
- 13) キタテハ *Polygonia c-aureum*  
C: 11-X (4 ♀)。
- 14) ヒオドシチョウ *Nymphalis xanthomelas*  
D: 20-Ⅲ (1 ♂, 2 ♀), 5-V (1 ♂)。F: 21-Ⅶ (1 ♂)。
- 15) ルリタテハ *Kaniska canace no-japonicam*  
B: 5-V (1 ♂), 6-Ⅶ (1 ♂)。D: 5-V (1 ♂), 17-Ⅷ (1 ♀), 他にも多数目撃。
- 16) ヒメアカタテハ *Vanessa cardui*  
C: 11-X (1 ♂), 個体数は少ない。
- 17) アカタテハ *Vanessa indica*  
B: 11-X (2 ♂, 1 ♀)。D: 5-V (1 ♂)。目撃 A: 5-V (lex.)。E: 11-X (lex.)。
- 18) スミナガシ *Dichorragia nesimachus*  
D: 23-V (1 ♂), 12-Ⅸ (3 ♂), 目撃 7-Ⅷ (lex.)。

- 19) コムラサキ *Apatura metis substituta*  
B: 4-Ⅶ (1 終令幼虫) (黒化型 1 ♂が羽化, 飼育は杉浦による)。E: 4-Ⅶ (1 ♂) (黒化型)。
- 20) ゴマダラチョウ *Hestina japonica*  
D: 29-Ⅱ (5 幼虫)。E: 22-I (10 幼虫)。
- 21) オオムラサキ *Sasakia charonda*  
D: 29-Ⅱ (4 幼虫)。E: 22-I (22 幼虫)。

## ジャノメチョウ科 (SATYRIDAE) (7 種)

- 1) ヒメウラナミジャノメ *Ypthima argus*  
C: 5-V (1 ♂), 23-V (1 ♂), 6-Ⅶ (1 ♂), 他目撃多。
- 2) ジャノメチョウ *Satyrus dryas hipunctatus*  
A: 5-V (1 ♂)。C: 5-V (1 ♂), 他多数目撃。
- 3) ヒメジャノメ *Mycalesis gotama*  
C: 16-V (1 ♂), 他に多数目撃。
- 4) コジャノメ *Mycalesis francisca*  
D: 16-V (1 ♀)。
- 5) ヒカゲチョウ *Lethe sicelis*  
C: 12-Ⅸ (1 ♂)。F: 21-Ⅶ (1 ♂), 他に多数目撃。
- 6) クロヒカゲ *Lethe diana*  
C: 6-Ⅶ (1 ♂), 4-Ⅶ (1 ♂), 11-X (2 ♂)。F: 21-Ⅶ (1 ♀), 他に多数目撃。
- 7) サトキマダラヒカゲ *Neope goschkevitschii*  
D: 23-V (1 ♂), 21-Ⅶ (1 ♀)。

採集・観察を行った地域のほとんどが植林地帯であり、条件が悪いにもかかわらず、県内産の約 54%にあたる 69 種の蝶類を確認することができ、おおよそその地域の蝶相が反映した結果が得られたと考えている。しかしながら、シジミチョウ科やジャノメチョウ科をはじめ、まだ何種か欠落があることと考えられる。諸先輩方のご批判とご指導をいただければ幸いである。

## 文 献

阿江 茂 (1976) 愛知県北設地方の蝶類。茶臼山

高原道路建設予定地域の自然環境報告書、愛知県道路公社, p. 215-223.

鈴木友之(1980) 蝶類, 愛知県豊根村の動物. 豊根村教育委員会, p. 160-165.

高橋 昭 他(1991) 愛知県のチョウ類, 愛知県の昆虫(下), p. 21-95.

杉浦 寛(1993) 茶臼山山頂でツマグロヒョウモンを採集, 三河の昆虫(40), p. 369-370.

## 豊田市幸海町で採集した蝶

加藤 真也

採集地は、豊田市の幸海町と穂積町の接しているあたりで、市が宅地開発を予定している地域であるという話を聞いたので(市には未確認)、ここに採集を記録しておく。

採集年月日は、1980年7月4日から1987年5月12日までで、回数にして11回であり、これ以後は採集に行っていないが今年採集地の様子を見に行ったところ、道路が以前の倍以上に拡張されていた。

1回目はオオムラサキを、2回目以降はウラナミジャノメやクロミドリシジミを目的に採集行をしたため、記録できたのが19種類のみとかなり偏った記録になってしまったことをお許し願いたい。

なお、学名は北隆館の猪又敏男著原色蝶類検索図鑑による。

1. スジグロチョウ (*Artogeia melete*)  
1♂ ('82-6-13)
2. ムラサキシジミ (*Narathura japonica japonica*)  
1♂1♀ ('82-6-13)
3. ウラゴマダラシジミ (*Artopotes pryeri*)  
1♀ ('82-6-13)
4. ミズイロオナガシジミ (*Antigius attilia attilia*)  
1♀ ('82-6-13), 1♂ ('83-6-12)
5. アカシジミ (*Japonica lutea lutea*)  
1♂ ('82-6-13)
6. ウラナミアカシジミ (*Japonica saepestrata*)

2♂♂1♀ ('82-6-13), 2♀♀ ('83-6-12)

7. クロミドリシジミ (*Favonius yuasai*)

1♂2♀♀ ('82-6-13), 88幼虫 ('84-5-15), 4幼虫 ('87-5-12)

88頭の幼虫は、1本の大木より得ることができた。2回目の幼虫採集は、脚立がなく、大木には登れなかった。

8. オオミドリシジミ (*Favonius orientalis*)  
1♀ ('83-6-12)

9. テングチョウ (*Libythea celtis celtoides*)  
1♀ ('82-6-13), 1♂ ('83-6-12)

10. イチモンジチョウ (*Limenitis camilla japonica*)  
1♂ ('83-6-12)

11. オオミスジ (*Neptis alwina*)  
2♂♂ ('82-6-13)

梅畑周辺に4~5頭飛んでいた。

12. ルリタテハ (*Kaniska canace no-japonicum*)

2♀♀ ('80-7-4)

13. オオムラサキ (*Sasakia charonda charonda*)  
1♂1♀ ('80-7-4)

14. ヒメウラナミジャノメ (*Ypthima argus argus*)

2♂♂ ('84-9-2)

15. ウラナミジャノメ (*Ypthima motschulskyi nipponica*)

1♂3♀♀ ('80-7-4), 3♂♂ ('82-6-

- 13), 2♂♂2♀♀('82-6-17), 1♂('82-7-3), 2♂♂1♀('82-8-30), 2♂♂('82-9-2), 1♂('83-6-23), 3♂♂('84-9-2)  
道路脇のヒメジョオンの花によく見られた。
16. ジャノメチョウ (*Minois dryas bipunctata*) 1♂1♀('80-7-4)
17. オオヒカゲ (*Ninguta schrenckii*) 1♂2♀♀('82-6-17), 3♂♂2♀♀('83-6-12)  
林の縁の休耕田に見られた。名古屋市の友人
- は幼虫も得ている。
18. クロヒカゲモドキ (*Lethe marginalis*) 1♂('84-6-18) 飼育羽化  
名古屋市の友人が幼虫を得て、名古屋市にて飼育したもの。幼虫は複数得ている。
19. ヒメキマダラセセリ (*Ochlodes ochraceus*) 1♂('82-6-13)

## 三河に産する興味ある昆虫(1993)

浅 岡 孝 知

1993年度愛知県内において、筆者が採集した昆虫類の中には、記録を残しておいたほうがよいと思われる興味ある種が何種も見られる。それらを以下に報告する。これらの種はあまり記録がされていなかったり、筆者が初めて採集をした種である。

### 1. ムネアカチビナカボソタマムシ

*Nalanda rutilicollis rutilicollis*

(Obenberger, 1914)

新城市吉川 11-VII, 1993 1ex.

雑木のビーティングより本種を得た。過去に豊橋市での記録があるが、これまで内陸での記録は見当たらないようである。典型的な暖地性の種で美しい小型種である。沖縄方面には、本種の近似種が生息している。

### 2. ツヤナガタマムシ

*Agrius cupes* Lewis 1892

北設楽郡設楽町神田 12-VII, 1993 1ex.

雑木のビーティングより本種を得た。過去に西尾市での記録があるが、他には見当たらない報告例の少ない種である。花に集まるようであるので、これから更に報告がされそうである。

### 3. クリタマムシ

*Toxoscelus auriceps* (E. Saunders 1873)

新城市黒田 11-VII, 1993 1ex.

雑木のビーティングより本種を得た。過去の記録は豊橋市、豊田市等県内で時折採集されている。体長は5mmで、暖地性の種である。

本地は標高僅か75mであり、近くには水田やクリの果樹園が見られるところである。(図A)

### 4. メンガタスズメ

*Acherontia styx crathis* Rothschild et

Jordan, 1903

豊川市財賀町財賀寺 14-VIII, 1993 2ex.

ナイトトラップで本種を得た。県下でもあまり例がないようであり、豊根村他2・3箇所での記録があるようである。本種の生態はとても興味深く、飛来するというよりも這ってくるように感じられた。1exは筆者の体を登ってきた。他方は地表を這ってきた。それ程個体数が多いとは考えにくく、次週も同地でナイトトラップを試みてみたが飛来しなかった。

財賀寺一帯は、シイ類の古木の残る照葉樹林が広がっている。このことが希少種を育てている要因のように思われるが、周辺は昔の面影はなく、伐採され幼木におき代わっている。(図D)



## 5. ヒメクロゴキブリ

*Chorisoneura nigra* Shiraki, 1908

新城市黒田 11-VII, 1993 1ex.

1 m位の樹上をビーティングして本種を得た。過去には記録が見当たらないようである。暖地性の種であり、体長は10mmであった。前胸背のまわりは透明である。同地の周辺は二次林であり、特にクリ林となっている。

翌月にも同地で採集を試みても確認できなかった。(図B)

## 6. ツシマムツボシタムシ

*Chrysobothris samurai* Obenberger, 1935

作手村黒瀬 9-VI, 1993 1ex.

枯れ木のビーティングより本種を得た。過去には、記録が見当たらないようである。上翅の端凹紋が消失する型である。体長は約10.5mmである。

本地は標高約540mの高原状となっていて、年降水量がやや多いところである。このような本地で得られたことは興味深い。(図C)

## 7. ジュウシホシツツハムシ

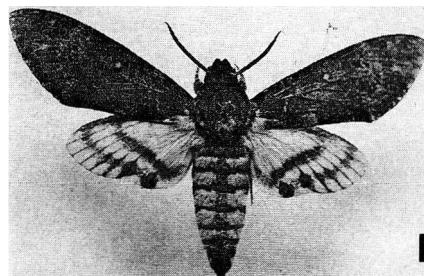
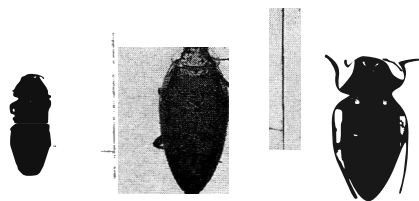
*Cryptocephalus tradecaspilotus* Baly, 1873

新城市吉川 11-VII, 1993 2exs.

林道のハギより本種を得た。暖地性の種であると思われるが、作手村のほか2・3例があるようである。新城市では他でも確認をしており、比較

的個体数が見られる。

吉川は標高200m足らずのところであり、比較的二次林が植林の中に残されている。



図A クリタムシ, B ヒメクロゴキブリ, C ツシマムツボシタムシ, D メンガタスズメ

## 参考文献

- 穂積俊文ほか(1990)愛知県の昆虫(上).  
田中 蕃ほか(1991)愛知県の昆虫(下).

河地方のコメツキムシ雑記(5)<sup>1)</sup>

大 平 仁 夫

1993年は天候不順で、三河地方のコメツキムシ類では新しい知見などはあまりなかったようである。しかし、同好者の支援のおかげで、分布についてはかなりよくわかってきたように思われる。ここには、緒方清人、山崎隆弘、浅岡孝知氏らからの標本を中心に紹介したいと思う。

## I 足助町下平のコメツキムシ

足助町下平は豊田市坂上町に隣接した山村である。

- 1) *Denticollis nipponensis* (Ohira, 1973)

ニホンベニコメツキ

足助町からは大平(1984)が安実京から記録しているのみである。

調査標本: 1♂, 下平, 4. V. 1993, 緒方採集

1) (4), 三河の昆虫, (40): 363~364.



2) *Limoniscus niponensis* (Lewis, 1894)

ニホンカネコメツキ

山地性で、三河地方の山間部で見出されるが個体数は少なく、今までに段戸裏谷、作手、鳳来寺山が知られているにすぎない。

調査標本: 1 ♂, 下平, 4. V. 1993, 緒方採集

3) *Corymbitodes gratus* (Lewis, 1894)

ドウガネヒラタコメツキ

三河地方には山間部に広く分布しているが、足助町からはまだ記録がないようである。

調査標本: 1 ♀, 下平, 4. V. 1993, 緒方採集

4) *Ampedus (Ampedus) hypogastricus*

(Candèze, 1873)

アカハラクロコメツキ

松林に多く見出される。足助町からは大平・浅岡 (1976) が記録している。

調査標本: 1 ♂, 下平, 4. V. 1993, 緒方採集

## II 知立市のコメツキムシ

知立市は西三河にある小都市で、一帯は田園が開けており、所々に社叢林がみられ、これが昆虫類の主な生息場所となっている。

1) *Agrypnus (Colaulon) hypnicola* (Kishii, 1964)

コガタヒメサビキコリ

三河地方では本宮山、小坂井町、稲武町などからの記録があるのみで、西三河地方ではこれが最初の記録である。

調査標本: 1 ♂, 牛田町, 14. VI. 1993, 緒方採集。

2) *Melanotus (Melanotus) legatus* (Candèze, 1864)

クシコメツキ

畑地や雑草地に普通の種で、成虫は燈火に好んで飛来する。

調査標本: 1 ♂, 山屋敷, 9. V. 1993, 緒方採集。

3) *Melanotus (Spheniscosomus) cete* (Candèze, 1860)

アアカシオオクシコメツキ

雑木林に普通の種である。知立市からは最初の

記録である。

調査標本: 1 ♀, 逢妻町, 13. V. 1993, 緒方採集。

## III 作手村のコメツキムシ

額田郡作手村は三河本宮山の北部に展開する標高 500 m 内外の高原で、山崎隆弘氏が調査を進めておられる。

1) *Agrypnus (Agrypnus) binodulus* (Motschulsky, 1861)

サビキコリ

作手村は牧場や豊耕地が開けており、本種の個体数は多い。

調査標本: 1 ♂ 1 ♀, 向山, 9. VI. 1993, 大平採集。

2) *Kibunea eximia* (Lewis, 1894)

ムラサキヒメカネコメツキ

本種は作手村からは最初の記録である。この標本は山崎氏の案内で向山の山林の 1 本のクリ樹から数頭を採集した。他の木からは全く得られなく、どうしてこの木だけに集っていたのか不思議である。山崎氏によれば、当日以前にもこの木で何頭も得ているということであった。

調査標本: 3 ♂ 2 ♀, 向山, 9. VI. 1993, 大平採集。

3) *Ectinus sericeus* (Candèze, 1878)

カバイロコメツキ

山林中に比較的早い時期に出現する。ここからは大平 (1990) にも記録されている。大平 (1991) には作手村産の詳しい形態の紹介がある。

調査標本: 1 ♂, 9. VI. 1993, 大平採集。

## IV 稲武町のコメツキムシ

稲武町は面ノ木峠や県境には三国山があり、コメツキムシの分布面でも大変興味のあるところである。ここではこれらの地域で見出された 1 種について記録する。

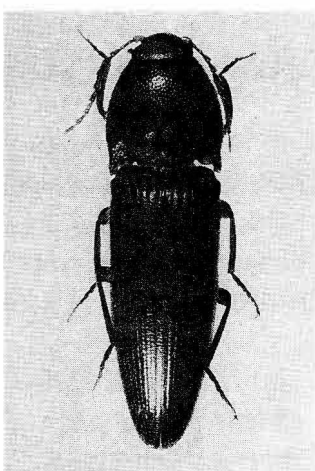
1) *Melanotus (Melanotus) legatoides* (Kishii, 1975)

ヒメクシコメツキ

本州、四国、九州の各地に広く分布する種であるが、愛知県では富山村から大平 (1978) が記録した 1 例があるだけである。筆者は本種を眞野で

川端に生えていたクルミの葉上で9月に採集した。

このようにおそい発生は大変興味がある。体長は18mm内外、体は暗褐色で褐色毛を生ずる。前胸背板の幅と長さはほぼ等しく、背面は膨隆する。一般外形はクシコメツキ (*M. legatus*) に類似するが、触角はより短く、第4節が短小であることにより識別できる。



ヒメクシコメツキ

調査標本：1♀，眞野，12.Ⅷ.1993，大平採集。

### 引用文献

- 大平仁夫・浅岡孝知 (1976) 愛知県のコメツキムシ (北設山岳地帯を中心にして) :141～153 (茶臼山高原道路建設予定地域付近の昆虫相) (愛知県)
- 大平仁夫 (1978) 富山村のコメツキムシ。昆虫と自然 13 (13) :24.
- (1984) 原田猪津氏採集のコメツキムシ (Ⅱ) 佳香蝶, 36 (138) :17～19.
- (1990) 愛知県南設楽郡作手村のコメツキムシ。三河の昆虫, (37) :277～280.
- (1991) 愛知県のカバイロコメツキ。三河の野生動物, (1) :32～34.

## 稲武町で採集したトンボ類数種

今泉美香・小鹿亨

筆者らは北設楽郡稲武町においてトンボ類を採集しているので、その中から以下の種について記録として報告する。また、データには杉浦寛氏の採集品を含む。

### 1) アオハダトンボ *Calopteryx japonica*

漆瀬付近の名倉川 27-Ⅷ-1993 (4♂♂6♀♀)。

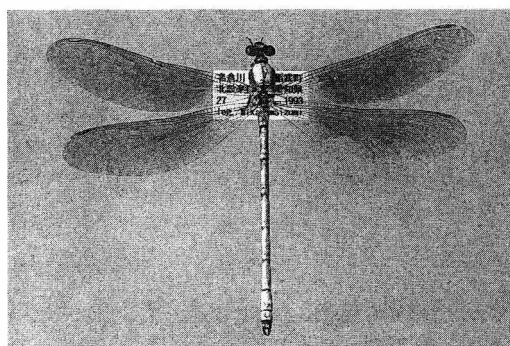
奥沼付近の黒田川 21-Ⅷ-1993 (3♂♂2♀♀)。

愛知の昆虫 (1990) によれば、県内では水質の変化によって、確実な生息地が少なくなっているという。当地では、黒田川や名倉川において多数の個体を見ることができた。

### 2) オオカワトンボ *Mnais nawai*

漆瀬付近の名倉川 27-Ⅷ-1993 (1♂)。

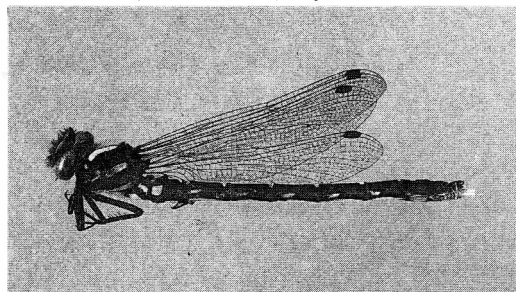
1♂のみを採集できた。当地ではニシカワトンボが圧倒的に多いが、本種も少数ながら生息しているものと考えられる。



### 3) ムカシトンボ *Epiophlebia superstes*

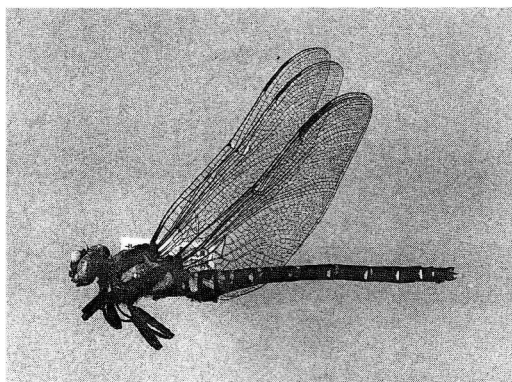
北貝戸 16-Ⅷ-1993 (1♂)。

1♂を採集できたが、数は少ないようだ。



4) ムカシヤンマ *Tanypteryx pryeri*

北貝戸 27-VI-1993 (1 ♂), 4-VII-1993 (1 ♂)(杉浦氏採集)(1 ♀)。



植林地の中の林道の周辺に見られた。当地にはミズゴケの多い沢などが随所に見られ、そうした場所が発生地になっているものと考えられる

5) クロサナエ *Davidius fuiama*

北貝戸 4-VII-1993 (1 ♂ 1 ♀)。

植林地の中の細流の周辺に見られた。

6) ルリボシヤンマ *Aeshna juncea*

北貝戸 12-X-1993 (2 ♂ 1 ♀)(杉浦氏採集)

北貝戸谷川の上流部の林道付近で採集された。

周囲はスギ・ヒノキに囲まれた植林地帯の中であった。付近には流れの停滞した湿地があり、ここが発生地になっているものと思われる。

なお、文末ではありますが、貴重な標本を恵与された杉浦寛氏に心より感謝いたします。

## 文 献

安藤尚 他 (1990) 愛知県のトンボ目、愛知の昆虫 (上), p. 9-78

石田昇三 他 (1988) 日本産トンボ幼虫・成虫検索図説。(東海大学出版会)

## ヨコヅナサシガメの分布とその生態

浅 岡 孝 知

ヨコヅナサシガメ *Agriosphodrus dohrni* (Signoret, 1862) は、本邦産カメムシ目サシガメ科のなかで最大種である。体長は30mm前後であり、昼間は樹皮上で静止していて、夜間敏速に活動し獲物を捕らえ体液を吸うことが知られている。

寄主食物は普通サクラとされている。本種の分布については、その生態とともに不明な点が多かった。

愛知県において、最初に確認されたのは最近のことで1986年のことである。全国的にも珍しい部類に入り、昔のどの文献でも京阪神中心の分布になっている。また、産地としては、インド、中国など暖地系の種であることが知られている。

このようなことから、愛知県における本種の分布とその生態について、既知記録を含めて若干ながら報告をしたい。



図1 樹皮上のヨコヅナサシガメ (音羽川)

## 1 調査・方法

寄主植物のサクラ、特にソメイヨシノは多くの場合川沿いに植栽されていることが多い。したがって、水系ごとに調査しまとめてみた。

- ・ 調査した水系は豊川と矢作川であり、またこれらの支流を含んでいる。
  - ・ それぞれの樹齢や生息場所、個体数、季節等の違いを考慮してみた。
- 確認した各地の様子は次のようであった。

## 2 結果(筆者の既報済み記録を含む)

### ・ 豊川水系音羽川

豊川市御油町 7-VI, 1993 3 exs.

調査本数は32本であり、死骸個体がかかり見られた。生息場所は地表から約80cmのところであった。樹齢の古い木に見られた。

### ・ 豊川水系佐奈川

豊川市平尾町駒場池 7-VI, 1993 1 ex.

調査本数は40本であり、音羽川に比べ若木が多い。生息場所は地表から約300cmの頭上であった。尚、同地区にほど近いところのサクラの大樹にいたという緒方清人氏の私信をいただいたので、丹念に調べたが確認できなかった。

### ・ 豊川水系音為川

南設楽郡鳳来町<sup>1)</sup>門谷 既知産地

調査本数はわずか数本であるが、ここではサクラではなくカエデ類の大樹のほくらにかなりの個体数が見られた。第一発見者は大平仁夫氏である。

### ・ 矢作川水系安永川

豊田市<sup>2)</sup>挙母町 既知産地

この周辺には既知産地として知られ、記録地が多く、愛知県での初記録は豊田市御船町であった。

### ・ 矢作川水系本流近く

豊田市勘八町 25-V, 1991 3 exs.

調査本数は約20本であり、このうち数本にかなりの個体数が見られた。生息場所は地表より80~200cmの枝分かれの部分であった。樹齢の古い木に確認された。第一発見者は岩月学氏である。

### ・ 矢作川水系籠川

豊田市猿投神社~猿投山<sup>3)</sup> 既知産地

この産地はかなりの個体が見られている。

### ・ 矢作川水系伊賀川 VI, 1993

岡崎市伊賀町愛宕小学校校庭

魚類研究家の永井貞氏からの私信により、小学校のサクラの古木に確認された。

### ・ 矢作川水系乙川 V, 1993

岡崎市在住の大平仁夫会長からの報告である。

以上の信頼できる記録を図にまとめたのが次の図2である。

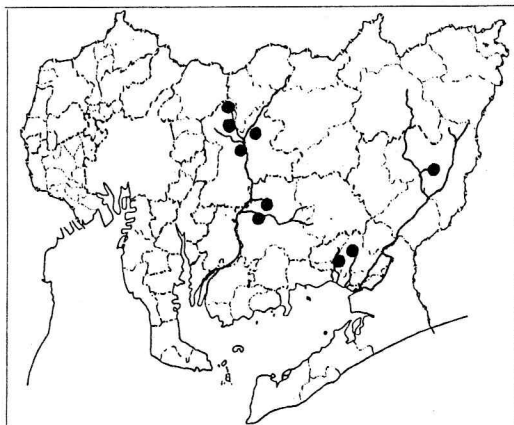


図2 ヨコヅナサシガメの分布

### 参考記録(県外)

奈良県吉野川流域 V, 1992 2 exs.

奈良県宇陀川流域 V, 1982 2 exs.

徳島県吉野川流域 4-V, 1992 多数

## 3 生態

以上のような分布上から理解できたことを述べることにする。

3月~4月幼体であった本種は5月ごろには成体になっているが極端に個体数が減っていることである。他の棲みかを求めて移動したのかも知れないが、月毎の個体数は激減していた。また、6月以降かなり移動するようである。このことはある時期を境いになくなることを示唆している。

音羽川の場合には、かなりの死骸が樹上あるいは地表に落ちていた。これらのことから、鳥など他の生物の影響と、本種同士の共食いが考えられ

ることである。

サクラの樹齢は生息と関係があり、若い木より老木といわれる古木に多く個体数が見られた。しかし、他県特に近畿圏や四国のように分布がよく知られた地域では、若木にも見られた。

サクラはほとんどの場合重要な寄主となるが、状況によっては絶対的なものではないように思われる。鳳来町の例は、サクラが両脇にあるにもかかわらずカエデ類に生息していた。若木のサクラより老木のカエデ類には、都合よくうろが存在していたわけである。

生息場所は地表より高いところ、身を隠すのによいところに多く見られた。そして、夜間は地表に降りるようである。このことは、徳島県で夜地表を移動中の本種を確認することができた。また、上翅を割合巧みに操り飛翔することができるのではないと思われるが明らかになっていない。

以上とりとめのないようなことを述べてきたが、筆者の頭をよぎっていたことがある。それは調査

がまだ十分ではないにしても、本種は河川との関わりが強い種であるように思われる。勿論植栽されたサクラに関係があるのだが、本種の分布の経緯を考えると、いわば人工的に分布を広げている種といってもよいのかも知れない。しかし、疑問な点も多いので今後も継続して調査して行きたい。

本論を述べるのにあたって、大平仁夫会長、永井貞氏、緒方清人氏、岩月学氏に情報を得ました。感謝を申し上げます。

### 参 考 文 献

- 1) 浅岡孝知 (1993) 鳳来寺山の半翅類、鳳来寺山の自然誌：489-490 (鳳来寺山自然科学博物館)
- 2) 田中蕃 (1986) 豊田市でヨコヅナサシガメを採集。佳香蝶 38 № 145:9 (名古屋昆虫同好会)
- 3) 浅岡孝知・家城司 (1990) 愛知県の異翅目 愛知県の昆虫 (上)：163.

## 愛知こどもの国で採集した迷蝶 2 種

加 藤 真 也

幡豆郡幡豆町大字東幡豆地内の愛知こどもの国内で、迷蝶と思われる 2 種を採集しているので報告する。2 種共に筆者採集、保管している。

### 1. ウスイロコノマチョウ (*Melanitis leda*)

1985 年 9 月 11 日 1 ♀

中央管理棟内のガラス扉に静止していたものを採集した。大きな破損はないが、細かい切れが多く、かなりすれた個体である。

### 2. メスアカムラサキ (*Hypolimnas misippus*)

1988 年 9 月 22 日 1 ♀

動物広場の花壇のマリーゴールドに飛来したもの。採集前は、ほぼ完全な個体であったが、魚捕り用の網で採集したので破損してしまった。採集前は美品であったことから考えれば、遠くから飛来したものではなく比較的近い場所で発生した可能性もあるが、この個体以外には目撃もしていない。

## 下山村でウスバジロチョウを採集

白 井 和 伸

1992年5月15日、東加茂郡下山村梨野で、ウスバジロチョウを3♂採集した。

愛知県のウスバジロチョウは、南・北設楽郡と新城市の他額田郡の一部に記録があるが、東加茂郡での記録はこれが初めてと思われる。

この日、国道420号線を東から西へ抜けたが、

梨野で一ヶ所、7～8頭が畑のへりを飛んでいるのを見て3♂採集した以外、420号線沿では他に見かけなかった。

## 額田町と下山村のクロヒカゲモドキの採集記録

小 鹿 亨

筆者はクロヒカゲモドキ *Lethe marignalis* を、額田郡額田町の北西部と東加茂郡下山村の南西部において採集しているので報告する。

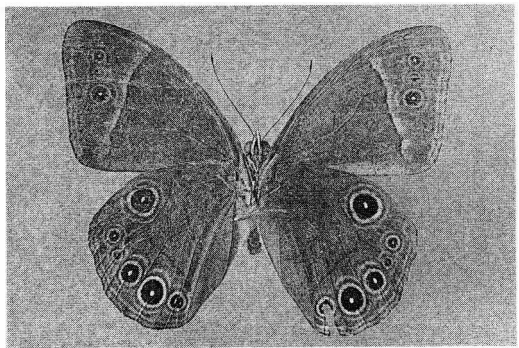
《データ》採集日は全て22-VIII-1993.

額田郡額田町一色(2♂♂) 雑木林の中の湿地。

東加茂郡下山村蕪木(1♂) 雑木林の縁。

東加茂郡下山村花沢(1♂) 植林地帯の休耕田。

下山村では、これまでにクロヒカゲモドキの採集・観察記録がない地域であるが、本種が近くの岡崎市の北東部に発生していること(小鹿:1993)などから考えて、隣接する額田町とともに連続した分布を考えることができそうである。これまで局所的な分布をするチョウとされてきた(高橋他:1991)が、休耕田の増加などによって、三河の山間部では数が増えているのかもしれない。



### 参 考 分 献

小鹿 亨(1993) 岡崎市のクロヒカゲモドキの分布, 三河の昆虫, (40): 360-361.

高橋昭 他(1991) 愛知県のチョウ類, 愛知県の昆虫(下), 21-95.

## ベイト・トラップに入った2種のコメツキムシ

大 平 仁 夫

ピンホール型のベイト・トラップには、ときどきコメツキムシも誘引される。チビヒサゴコメツキが糖蜜トラップに好んで誘引されることはよく知られているし、サビキコリなどもよくみかける

種である。

筆者は原田猪津夫氏と段戸裏谷で醋酸によるトラップを仕掛けたが、そこに今まであまり入ったことのない2種のコメツキが誘引されたので報告

する。

1. *Hemicrepidius secessus* (Candèze, 1873)  
クロツヤハダコメツキ

1 ♂, 22.VIII. 1993.

2. *Hemicrepidius jactatus* (Lewis, 1894)  
メダカツヤハダコメツキ (図)

1 ♀, 22.VIII. 1993.

クロツヤハダコメツキは普通種で、裏谷でもよくみかける種であるが、メダカツヤハダコメツキは個体数は少ないし、雌はあまりとれない種である。たまたま地上にいて落込んだと思われるが、珍しい例と思われるのでここに記録することにした。末尾に、トラップ



メダカツヤハダコメツキ

の設置などについて支援を頂いた原田先生に厚く御礼申し上げる。なお、これらの標本は筆者が保管している。

## 安城市内でツマグロヒョウモンを目撃

杉 浦 寛

筆者は、愛知県安城市立桜林小学校の校庭において、ツマグロヒョウモン *Argyreus hyperbius* を目撃しているので報告する。

1 ♂ 愛知県安城市中狭間、Ⅸ-16-1993、筆者目撃。

本個体は、小学校の校庭を風に乗りながら、わりと穏やかに飛翔していた。破損もなく色鮮やか

な雄の個体であったため、丁寧に捕獲しようと捕虫網を取りに行ったのだが、戻って見ると既に姿は見られなくなっていた。

安城市内において、採集・目撃記録はない。



# クロコノマチヨウを御津町で目撃

今 泉 美 香

クロコノマチヨウ *Melanitis phedima oiten-*  
*sis* を御津町南部において目撃したので報告する。

愛知県宝飯郡御津町 2頭 (1-XI-1993)

夕刻に御津南部小学校舎内に飛来してきた個体を目撃した。本種は暖地性のチョウで、年により分布の拡大や衰退が見られる。県内では1980年代から急に分布を拡大している。

## 参考文献

高橋 昭 他 (1991) 愛知県の蝶類. 愛知県の昆虫 (下).

福田晴夫 他 (1984) 原色日本蝶類生態図鑑 VI.

(☎441-12 宝飯郡一

## 三河昆虫研究会の総会

三河昆虫研究会の総会は、岡崎市竜美ヶ丘会館の3F会議室で平成5年3月21日に開かれた。今回は、山崎隆弘・浅岡孝知両氏が、三河湾の島々の調査をまとめて「三河湾島の昆虫」を自費出版されたので、そのお祝いもかねての総会であった。

三河昆虫研究会では、同好者が協力し合って地域の昆虫相の解明にとり組んでおり、西尾市の長谷川重男氏の「ふるさとの蝶」や岡崎市の杉坂美典氏の「ゴマシジミの謎を探る」などに

引続いての出版物で、同好者に大きなはげみとなった。(花束を持っているのが山崎氏)

(大平仁夫)

